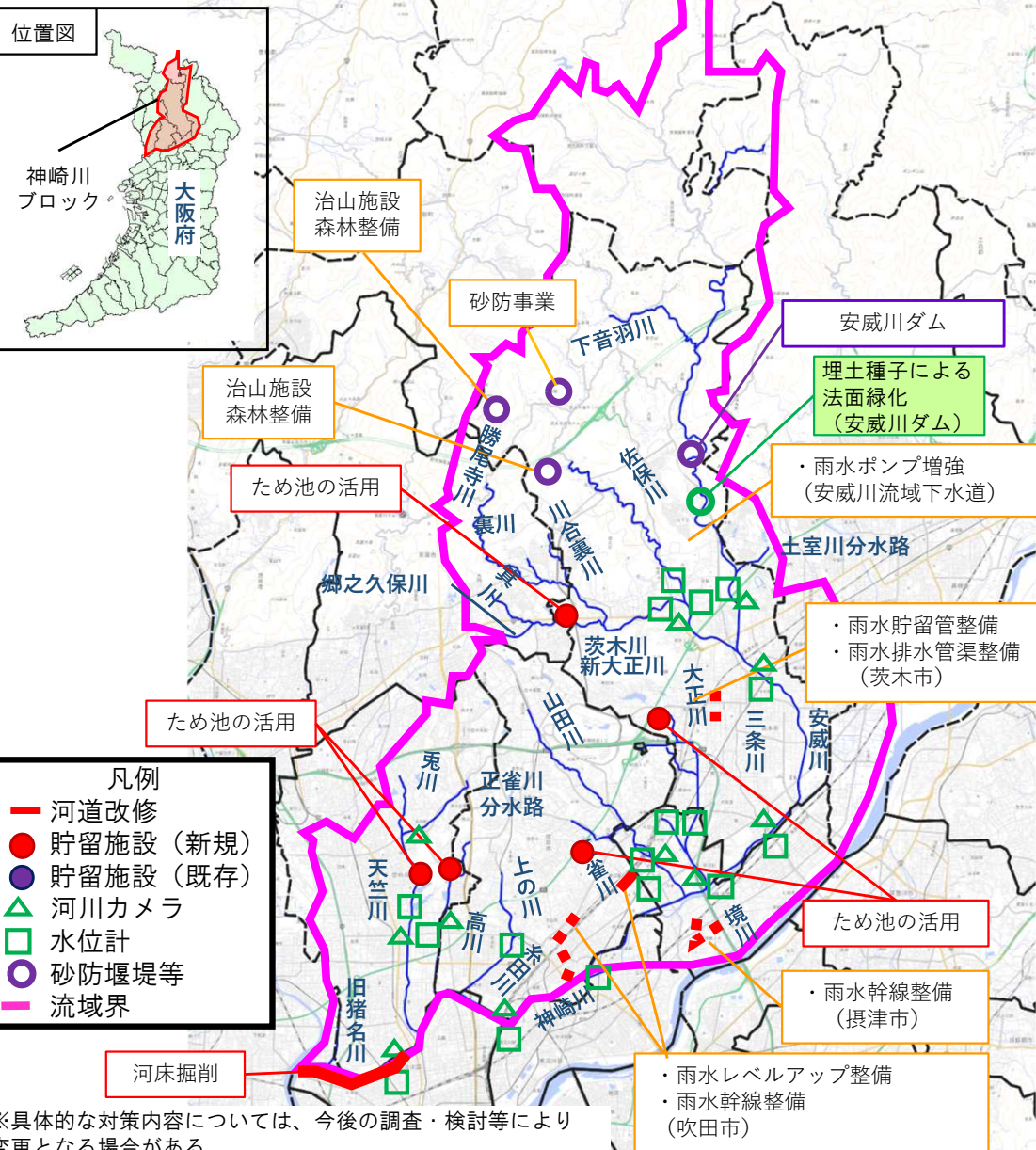


○神崎川ブロックでは、当面の治水目標に従い、河道拡幅、河床掘削等による洪水対策を実施します。旧猪名川、境川、三条川、新大正川、郷之久保川、川合裏川、裏川、土室川分水路、下音羽川、糸田川、茨木川、佐保川、勝尾寺川、上の川では当面の治水目標を達成しており、神崎川では時間雨量65ミリ程度の降雨、安威川、天竺川、兎川、高川、山田川、正雀川、正雀川分水路、大正川、箕川では時間雨量80ミリ程度の降雨による洪水を対象に整備を行います。



●氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河道拡幅、河床掘削、築堤【府】
- ・河道内の堆積土砂除去【府】
- ・ため池及び農業用施設等の治水活用【府・市・民間】
- ・砂防事業、治山施設・森林整備・保全【府・市】
- ・雨水貯留浸透施設、雨水幹線整備、下水道

●被害対象を減少させるための対策

- ・土砂災害特別警戒区域内における既存住宅に対する補助制度【府・市町】
- ・土地利用誘導（立地適正化計画の見直し等）等【府・市町】

●被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

①情報伝達、避難計画等に関する事項

- ・洪水浸水想定区域の指定拡大【府】
- ・想定最大規模の雨水出水に係る浸水想定区域図等の作成と周知【府・市町】
- ・基礎調査の実施と公表と土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域の指定【府】
- ・ホットラインの運用（洪水・高潮・土砂）【府、市町、気象台】
- ・避難情報発令の対象区域、判断基準等の確認（広域タイムライン）（洪水・高潮）【府・市町・民間】
- ・避難情報発令の対象区域、判断基準等の確認（市域・町域タイムライン）（洪水・高潮・土砂）【市町】
- ・避難情報発令の対象区域、判断基準等の確認（コミュニティタイムライン）（洪水・高潮・土砂）【市町】
- ・IoTを活用した洪水情報の提供【府、気象台】
- ・防災施設の機能に関する情報提供の充実・水害危険性の周知促進【府】
- ・隣接市町における避難場所の設定（広域避難体制の構築）等【府・市町】
- ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成及び避難訓練の実施（洪水・高潮・土砂災害）【府、市町】
- ・応急的な退避場所の確保【市町】
- ・市町庁舎や災害拠点病院等の施設関係者への情報伝達の充実【府・市町】
- ・市町庁舎や災害拠点病院等の機能確保のための対策の充実（耐水化、非常用発電機等の整備）【市町】
- ・排水施設、排水資機材の運用方法の改善【府、市町】
- ・浸水被害軽減地区の指定【府、市町】
- ・重要インフラの機能確保【市町】
- ・樋門・樋管等の施設の確実な運用体制の確保【府・市町】
- ・施設管理の高度化の検討【府】
- ・重要水防箇所の見直し及び水防資器材の確認【府、市町】
- ・水防関係者間での連携、協力に関する検討【府・市町】
- ・洪水予測や水位情報の提供の強化、水位計、河川カメラの整備【府】

②平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項等

- ・水害ハザードマップの改良、周知、活用（洪水・内水・土砂・高潮）【国、府、市町】
- ・浸水実績等の周知【府、市町】
- ・水害の記録の整理【府、市町】
- ・災害リスクの現地表示【市町】
- ・防災教育の推進【府、市町】
- ・共助の仕組みの強化、地域防災力の向上のための人材育成【府・市町】
- ・住民一人一人の避難計画・情報マップの作成促進【府、市町】
- ・地区単位土砂災害ハザードマップの作成促進【市町】
- ・水防に関する広報の充実【市町】
- ・水防訓練の充実【国、府、市町】

●グリーンインフラの取組み

- ・小中学校などにおける河川環境学習
- ・自治体、住民、企業との協力による河川美化活動
- ・ダム建設に伴う現地植生回復
- ・安威川ダムのフラッシュ放流による安威川の河川環境の保全

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

神崎川ブロック 流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～流域人口200万人の命と暮らしを守る流域治水の推進～

- 神崎川ブロックでは、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、府・市町が一体となって、「流域治水」を推進する。
 - 【短期】 住宅密集地での重大災害の発生を未然に防ぐため、河床掘削および調節池整備等に着手。
 - 【中期】 河床掘削等および調節池整備の推進。
 - 【中長期】 時間雨量50ミリ程度の降雨に対して浸水を防ぎ、かつ時間雨量65ミリに対して家屋床上浸水を発生させない対策を完了。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			R4年度～ 短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	神崎川の河床掘削	大阪府			
	ため池の治水活用	大阪府・吹田市・茨木市・民間			
	砂防施設の保全	大阪府	定期点検による継続監視及び状況により適宜実施		
	河道内の堆積土砂撤去	大阪府			
	治山施設・森林整備	大阪府			
被害対象を減少させるための対策	土砂災害特別警戒区域内の既存住宅に対する補助制度	大阪府・豊中市・吹田市・茨木市・高槻市・箕面市			
	土地利用誘導（立地適正化計画の見直し等）等	豊中市・吹田市・摂津市・茨木市・高槻市・箕面市			
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	①情報伝達、避難計画等に関する事項 ・洪水浸水想定区域の指定拡大 ・雨水出水浸水想定区域の指定 ・市町村、地域タイムラインの策定 ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成 ・防災気象情報の改善 等	大阪府・大阪市・豊中市・吹田市・摂津市・茨木市・高槻市・箕面市・豊能町・気象台	洪水浸水想定区域指定拡大完了(R6年度)		
	②平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項 ・ハザードマップの改良・周知・活用 ・マイタイムラインの策定 等	大阪府・大阪市・豊中市・吹田市・摂津市・茨木市・高槻市・箕面市・豊能町	雨水出水浸水想定区域図作成・公表(R7年度)		
グリーンインフラの取組み	・河川環境学習 ・河川美化活動	大阪府・吹田市・茨木市・摂津市・高槻市			
	安威川ダムのフラッシュ放流による安威川の河川環境の保全	大阪府			

河川整備等による効果

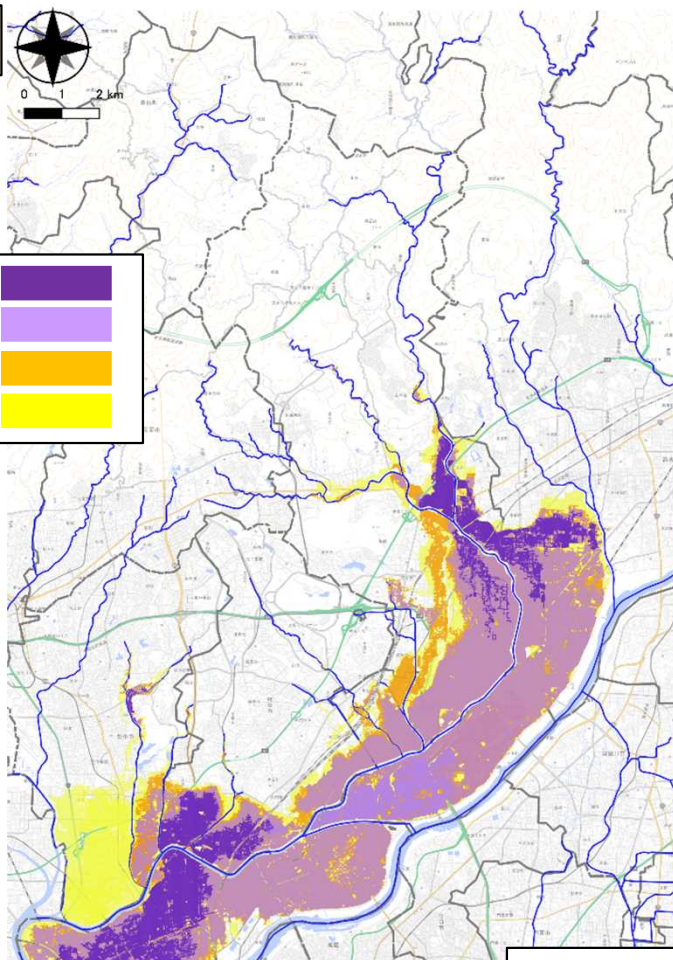
河道掘削や新規調節池の整備のほか、既存調節池やため池の活用の推進により、

神崎川：時間雨量65ミリ程度（1/40）の降雨に対し、家屋床上浸水が解消

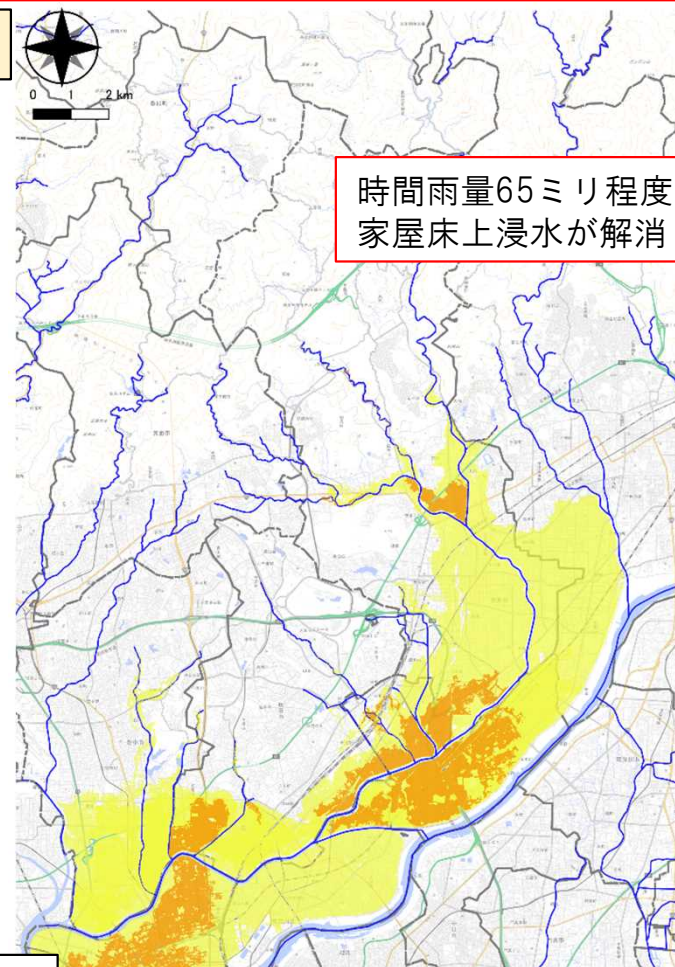
安威川、天竺川、兎川、高川、山田川、正雀川、正雀川分水路、大正川、箕川：

時間雨量65ミリ程度（1/30）の降雨に対し、家屋床上浸水が解消

現 状



整備後



時間雨量65ミリ程度の降雨に対し、
家屋床上浸水が解消

「測量法に基づく国土地理院長の承認（使用）」（申請中）

※この図は、1/10、1/30、1/100の確率年及び想定最大規模の降雨により想定される、府管理河川の外水氾濫の浸水範囲である。

※「現状」の図は、氾濫シミュレーション時点（H30）の施設整備状況において想定される浸水範囲を示したものである。

※「整備後」の図は、河川整備計画の整備メニュー実施後において想定される浸水範囲を示したものである。なお想定最大規模については、施設整備の効果を考慮していない。

当面の治水目標に対応した河川の整備



整備率：89%

(令和6年度末時点)

農地・農業用施設の活用



4市町

(令和6年度末時点)

流出抑制対策の実施



既存防災調節池等
17施設

(令和6年度末時点)

山地の保水機能向上
および
土砂流木災害対策



治山対策 2箇所
土石流対策 1施設

(令和6年度実施)

立地適正化計画に
おける防災指針の作成



6市町

(令和6年度末時点)

避難のための
ハザード情報の整備



洪水浸水
想定区域 24河川

雨水出水
浸水想定区域 2団体

(令和6年度末時点)

高齢者等避難の
実効性の確保



避難確保 洪水 7123施設
計画 土砂 54施設
高潮 4139施設

避難訓練 1520施設

(令和6年度末時点)

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

安威川ダムによる洪水対策

安威川では、洪水対策として、昭和42年7月の北摂豪雨災害を契機に計画が立案され、平成26年よりダム本体工事に着手した。令和5年9月に運用開始され完成した。豪雨災害に対して飛躍的に治水効果を高めるものであり、府民の皆様の安全・安心に向上につながるものである。



安威川ダム完成

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

吹田市の避難確保計画の取組

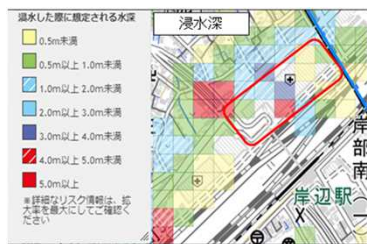
吹田市では、避難確保計画策定100%にするために茨木土木事務所と協力して、未策定な施設に声をかけ、策定支援をおこなうための相談会を行った。

取組結果

別日希望もあって参加施設は10施設と少数参加となった。(小中学校13施設については個別対応のため相談会の照会はかけていない。)

残りの50施設については期間を設けても100%に到達しなかったため、個別対応した。令和6年2月末に避難確保計画100%達成した。

また、直接話をする事で水害時等の備えや避難への意識向上につながった。



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

摂津市の地域とともに考える水害からの広域避難の取組

摂津市では、1つの小学校区をモデルとし、多様な人が市域外への広域避難について考えるワークショップを開催した。

ワークショップ参加者とともに、参加者が出演する啓発動画及び地域版防災マップを作成を行った。

ワークショップ



防災マップ



啓発動画



グリーンインフラの取り組み

水辺の楽校などの取組

こども達とともに、川に入って魚の勉強や川の水質調査など河川環境学習を行うとともに、出前授業等により広く河川環境の重要性について周知活動に取り組んでいます。



自然環境に配慮した取組(フラッシュ放流)

ダムは大雨時に下流側の洪水被害を軽減する効果がありますが、同時に日ごろの雨による川の増水も減らしてしまうため、ダムから一時的に放流量を増やす『フラッシュ放流』を行うことで、人工的に川が増水する状況をつくり、川のよどみの解消や川底の小石、土砂の移動などを起こし、自然の川に近づけます。



放流前

放流後